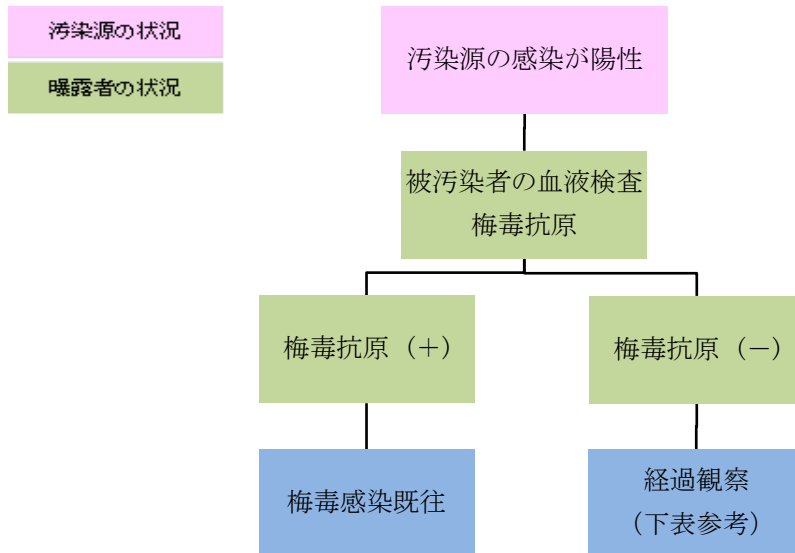


社会福祉法人 ^{財団} 済生会支部埼玉県済生会栗橋病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアルF-15：梅毒対応フローチャート		
文書番号	感対-共手-F 職業感染予防 15-001-170901	ページ	2 / 3

F-15：梅毒対応フローチャート



経過観察 定期検査の間隔

	0	0.5	1	2	3	4	5	6	//	12	(月)
血液検査 RPR 検査	*	*		*				*			
TPHA 検査			*					*		*	

※陽性が確認されたら治療(経口ペニシリン薬を7～10日間投与)

脂質抗原で検出 (STS) (非特異的反応)	TP 抗原で検出 抗体検出法 (特異的反応)		考えられる病態・原因	対応
	RPR	TPHA		
+	+		梅毒(再感染を含む) 梅毒治癒後の抗体陽性者 他のスピロヘータ感染症	各定量検査の実施 (治療開始、間隔をおいて再検査)
+	-	+	初期の梅毒	再検査(他の検査法を含む)
		-	生化学的偽陽性	
-	+	+	治療後、非常に古い梅毒	TP 抗体 IgM(-)なら治療の必要はない
		-	TPHA の偽陽性	
-	-		非梅毒 ごく初期の梅毒 初期梅毒治療後	感染が否定できない臨床所見がある場合は再検査

社会福祉法人 ^豊 済生会支部埼玉県済生会栗橋病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアルF-15：梅毒対応フローチャート		
文書番号	感対-共手-F 職業感染予防 15-001-170901	ページ	3 / 3

※FTA-ABS は必要に応じて実施

臨床産婦人科 55.1.2001/感染症の診断・治療のガイドライン 日本医師会編ほか. 参照